

今、私達にとって大切な事



南中学校2年 佐々木 彩花

私は今、中学校生活をすごく楽しんでます。期待と不安で迎えた、学期も、無事に終えました。しかし、小学校生活を振り返ると、身の回りトラブルが起きたり、自分自身もとても悩んだ出来事もありました。

また、前にニュースでやっていた長崎県の事件では、人の命が奪われるまでになってしまいました。この小学生殺人事件の原因はチャットでの悪口でした。私達の周りでもこの事件のように言葉で傷つく事もありました。私がこのようなケースで一番大切だと思う事は、言いたい事があつたら、陰でゴソソソ言うよりも直接本人にはつきり伝えた方がずっとずっと良いという事です。

また、女子の場合、高学年になるにつれて、グループを作るようになりました。そして、そのグループの中で仲間外れなどがよくありました。私も実際、そのような事に毎年のように直面しました。私はすごく悩みましたが、その時は色々相談にのってくれました。どんな事でも話を聞いてくれる優しい母がいたからこそ、またやり直そうと思つた事を今でも覚えてます。だから、今の中学校生活がすごく楽しく送れるのだと思います。

一学期の人権週間の時には、担当の先生が読んでくださった、二つの作文が、私に大切な事を教えてくれました。気づかなかった事を気づかせてくれました。その中で、特に印象に残っているのは、電車

の中で優先席に座る若者の話でした。日本人の「無関心な行動の一つです。どんな事情があるにしてもそんな自己中心的な行動は許されぬ。様々な性格の人がいて、互いに結びつきながら社会を作っているのだ」という言葉に、私はとても強くひかれました。そして、今まで自分の悪かった所はよく見直していることと思ひました。その反省をもとに、まず自分自身から変えていきたいです。人権を傷つけ、人を悲しませる事をなくしていけば良いと思います。一人一人の人権をむやみに傷つける事は絶対にいけない事だと思ひ、自分もしないように気をつけようと思ひます。それには一人一人が気づいていかなければならないと思ひます。それでもまだ人を傷つけている人には、一言呼びかけてあげるような人になりたいし、目指そうと思ひます。こうした日々の努力がやがて実り、一人でも不快な思いをしている人が出ないような班から始まり、クラス、学校になってもらいたいです。そして、今まで以上にみんなの人権についてや、命の大切さなどを考える事が大事です。少しでも本当の心の美しさを持つ人が増え、お互いの事をわかり合えて、生きるという事の喜びを分かち合えるような、明るい社会になるように願っています。

これから先、色々なトラブルにぶつかる事が絶対にあると思ひます。何もかもがうまくいくはずがありません。そんな時、その問題にどう立ち向かっていけるかが大切なのだと思います。心強い親友、頼れる優しい両親などの協力も、もちろん必要です。しかしそれだけでなく、自分自身強い心を持つ事も大事だと考えています。また、日頃から思いやりの心を持つように努力する事を心がけたいと思ひます。最後に、私のクラスの学級目標である、「人に優しく、自分に厳しく」を常に心にとめて、毎日生活していきたいなと思ひています。

夢

なかなるべからず

人口問題で世界を駆ける

池上 清子 さん



国連人口基金

地球の人口は現在67億人に達している。単に人口が増加しているのではない。世界人口の現状には、先進国の少子高齢化と開発途上国の人口増加の両極がある。人口問題は個々

の国々が個別に取り組んでも解決の糸口はなかなか見つからない。世界的な連携に加え、社会的に弱い立場に置かれている人たちの生活を良くしたいという基本的な視点が必要だ。その難解な問いに立ち向かう日本女性がいる。国連人口基金東京事務所長 池上清子。

武者と生まれて描く虹

〜 畠山重忠伝説 〜



ひよどり越え

木曾義仲を討つた範頼、義経軍は、続いて平氏を追って西国へ向かった。重忠もそれに従い元暦元年(一一八四)二月七日、平家が陣を構える一ノ谷の背後にそびえる「鶴越」へ到着した。義経は鶴くらしいしか通れない難所の崖を下れば、平家軍を奇襲できると考えた。案内人にこの悪所でも鹿はたくさんいると聞いた義経は、「鹿が通れるなら、馬を何頭か降りさせよう」と言つて、鞍を置いた馬を数頭坂へと追い込んだ。義経は「乗り手が注意して馬をあやつれば怪我などするまい。義経に続け」と、義経を筆頭に三十騎ばかりが手綱を引き締め、鎧をふんばりながら坂を下つた。それを見ていた重忠は、おもむろに馬を背負い坂を下りて行つた。源平盛衰記は、「義経鶴越を落す並に畠山馬を荷つ付馬の因

縁の事」の項で、「畠山は(中略)壇の上にて馬より下り、差しのぞいて申しけるは『爰は大事の悪所、馬転ばして悪しかるべし、親にかかる時子にかかる折と云う事あり、今日は馬を労わらん』とて、手綱腹帯より合わせて、七寸に余りて大いに太き馬を、十文字に引きからげて、鎧の上に背負つて、椎の木の手落ち一本抜切り杖につき、岩のはざまをはずしとこそ下りけれ。東八か国に大力とは云いけれども、只今かかる振る舞い、人倫には非らず、誠に鬼神のしわざとぞ、上下舌を振りける。(中略)畠山は此の岩石に馬損じてはふびんなり、日頃は汝にかかりき、今日は汝をはぐくまん、と云いける。情深しと覚えたり」と記している。重忠は範頼軍に属していたという説もあるが、重忠の人柄を偲ばせる大切なエピソードである。

違いを受け入れる

父 親は、蚕の遺伝子研究を求め、外国から留学生が集まった。小さい頃から周りに外国人がいる環境で育つた。外国に興味を抱き始めた深谷中学校1年の時、父親がオー



この笑顔は世界共通に通じる言語

プリンリールのテープレコーダーを買ってくれた。NHKラジオの英会話を繰り返し聞いた。高校生の時、難関の留学試験に合格した。母親には最後まで反対されたが、担任の先生に背中を押された。留学中の1年間で、多くの刺激を受けたが、人種の坩堝の中で、「さまざまの違いを、無理なく受けいれる」という姿勢を学んだことが、後の人生に影響を与えた。

走りながら考える

国際基督教大学(ICU)大学院で国際行政学を修めた後、国連に入ることに違和感はなかった。走りながら考える。連本部人事局や国際NGOのロンドン資金調達担当官などを経て、02年から現職。昨年は、ニースウィーク日本版の「世界が認めた日本人女性100人」に選ばれた。現在、国連の加盟国は一九二カ国。当然、文化も政治体制も違う。その多様性に基づいた国際協力の重要性を日本の若者に伝えるため、最近では日本中を駆け回り講演を行う。秒単位のスケジュールでも、「娘から『走りながら考える人』といわれるのよ」と目を細め、お母さんの顔になった。

夢七訓

- 夢なき者は理想なし
- 理想なき者は信念なし
- 信念なき者は計画なし
- 計画なき者は実行なし
- 実行なき者は成果なし
- 成果なき者は幸福なし
- ゆえに 幸福を求める者は夢なかるべからず

(本文中の敬称は本人の承諾を得て省略しています)